

序章 調査の概要

(1) 調査の目的

本市では、地域自治の構築に向けた仕組みづくりの一環として、①まちづくりは目指す方向に向かって上手く進んでいるのか、②市民生活や地域社会の状況を把握できているのかについて、市民とともに確認していく「尺度＝道具」としてのモノサシが必要ではないかと考え、市民目線による「ながくて幸せのモノサシづくり」を平成 25 年度から取り組んでいます。

そして、「ながくて幸せのモノサシづくり」を進めるにあたって、長久手の姿や市民の皆様の暮らしの状況等を確認することを目的に、市民の皆様の日常生活や地域生活の実感をお聞きする「ながくて幸せ実感アンケート」の実施を平成 26 年 2 月から 3 月にかけて実施しました。

調査の実施にあたっては、市民目線による「ながくて幸せのモノサシづくり」に取り組むために、公募して集まった有志の市民と市職員による「ながくて幸せ実感調査隊」（以下「調査隊」という）を結成し、『今の「ながくての幸せ」を測ってみよう！』をキャッチフレーズに、計 10 回のミーティングの開催を通じて、「幸せ」に欠かせないことや大切なこと、確認すべきことについて、何度も議論を重ねてアンケート調査票を作成しました。また、調査結果の分析においても、ワークショップの開催を通じて調査隊のメンバー参加型で進めました。

こうした「ながくて幸せ実感アンケート」の実施から 3 年経過する中、長久手市民の幸せ実感がどのように変化したのかその実態を明らかにすることを目的に、この度、平成 28 年度版「ながくて幸せ実感アンケート」を実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

①調査対象者

- ・住民基本台帳から無作為に選んだ市内在住の満 18 歳以上の市民と前回のアンケートで次回もアンケートの協力をしてもよいと回答した市民を合わせた 5,000 人。

②調査方法

- ・郵送による配布・回収

③調査期間

- ・平成 28 年 12 月 22 日～平成 29 年 1 月 16 日

※その後 2 月末までに回収できた調査票についても極力集計するよう努めた。

(3) 調査票の回収状況

- ・回収状況は、下表のとおり。

表-1 回収状況

A : 配布数	B : 回収数	C : 有効回収数	D : 有効回収率 $D = C / A$
5,000	2,570	2,569	51.4%

(4) グラフの見方等

- ・グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用いて表現しています。また、評点については、横棒グラフや折れ線グラフを用いて表現しています。

- ・基数となる実数はnとして掲載し、各グラフの構成比(%)はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比(%)は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー(選択肢)などの表現は、一部省略してある場合があります。

(5) 本文のコメントについて

- ・**要点**は、各設問の調査結果のポイントを簡潔に記述しています。
- ・**全体**は、各設問の単純集計の結果や、設問内における各項目との比較などについて記述しています。また、必要に応じて平成25年度調査結果との比較を記述しています。
- ・**年齢別**は年齢別にクロス集計を行った結果について記述しています。
- ・**小学校区別**は小学校区別にクロス集計を行った結果について記述しています。

(6) 問3 (P.32) 及び 問8～問18 (P.57～P.118) の評点の算出方法

各分野における生活の実感や実態については、下記の方法により5段階の得点をつけて、回答者の平均となる評点を算出しました。生活の実感や実態の分析はこの評点をもとに行っています。なお、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。

選択肢	選択肢	選択肢	得点
1. 満足している	1. そう思う	1. ある	5点
2. どちらかといえば満足している	2. まあそう思う	2. まあある	4点
3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3点
4. どちらかといえば不満である	4. あまりそう思わない	4. あまりない	2点
5. 不満である	5. そう思わない	5. ない	1点

選択肢	選択肢	選択肢	得点
1. そう思う	1. 参加している	1. 行われている	5点
2. まあそう思う	2. まあ参加している	2. まあ行われている	4点
3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3点
4. あまりそう思わない	4. あまり参加していない	4. あまり行われていない	2点
5. そう思わない	5. 参加していない	5. 行われていない	1点
6. 該当しない	6. やっていることを知らない	6. やっていることを知らない	計算に含めない

評点＝{「1. そう思う」の回答者数×(5点)＋「2. まあそう思う」の回答者数×(4点)
 ＋「3. どちらともいえない」の回答者数×(3点)＋「4. あまりそう思わない」の回答者数
 ×(2点)＋「5. そう思わない」の回答者数×(1点)}÷総回答者数
 評点＝{「1. そう思う」の回答者数×(5点)＋「2. まあそう思う」の回答者数×(4点)
 ＋「3. どちらともいえない」の回答者数×(3点)＋「4. あまりそう思わない」の回答者数
 ×(2点)＋「5. そう思わない」の回答者数×(1点)}÷(総回答者数－「6. 該当しない」の回答者数)

★問16については、以下の計算式で算出しています。

評点＝{「1. 思っている」の回答者数×(5点)＋「2. あまり考えていない」の回答者数×(1点)
 ＋「3. わからない」×(3点)の回答者数÷総回答者数

第1章 回答者の属性

(1) 性別 (問19 (1))

問19 (1) あなたの性別は、どちらですか。【〇は1つ】

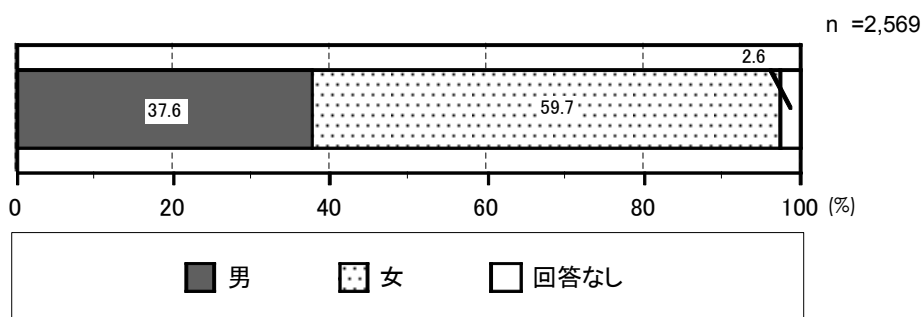
要点

女性が約6割、男性が4割弱となっており、女性からの回答が多くなっています。

全体

- 「男性」が37.6%、「女性」が59.7%と「女性」の割合の方が多くなっています(図1-1)。
- 調査時点における市内全体の男女の比率が、ほぼ同じ割合であるのに対して、今回の調査では「女性」の割合が「男性」の割合を22.1ポイント上回っています。

図1-1 性別



(2) 年齢 (問19 (2))

問19 (2) あなたの年齢は、次のうちどれですか。【〇は1つ】

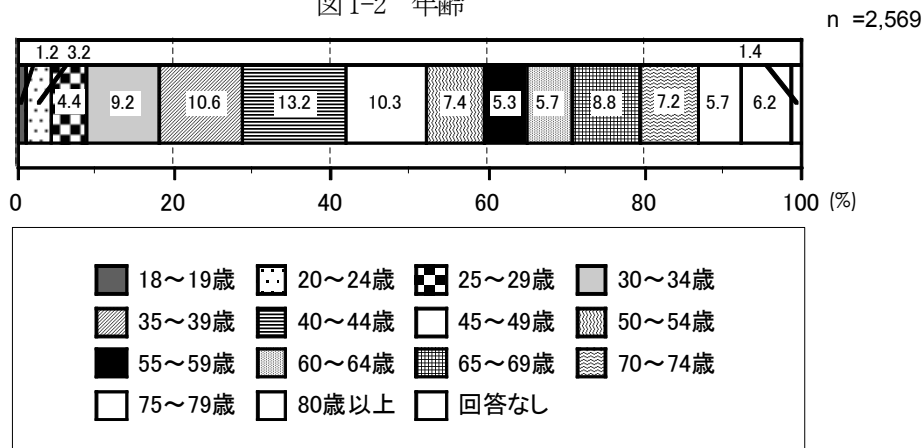
要点

「40～44歳」が13.2%と最も多い一方で、20歳代以下は、1割未満と少なくなっています。

全体

- 「40～44歳」が13.2%と最も多く、次いで「35～39歳」と「45～49歳」がそれぞれ、10.6%、10.3%となっている一方で、24歳代以下や「25～29歳」は、共に4.4%と少なくなっています(図1-2)。
- 高齢者層の回答が実際の長久手市の人口構成を上回っているものの、概ね長久手市の人口構成を反映するような結果になっています。

図1-2 年齢



(3) 職業 (問 19 (3))

問 19 (3) あなたの職業は、次のうちどれですか【○は1つ】

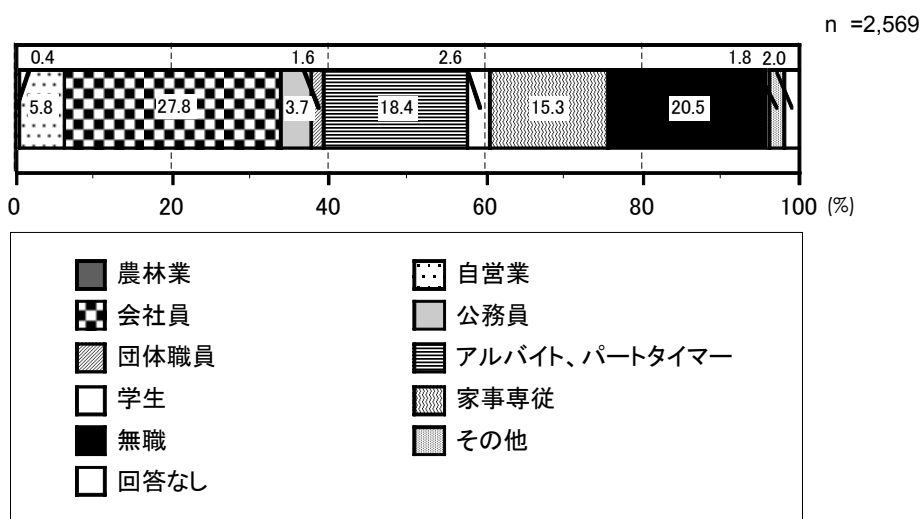
要点

「会社員」が27.8%と最も多いものの、「無職」(20.5%)、「家事専従」(15.3%)の2項目に「学生」(2.6%)を合わせた“非就業者”は全体の38.4%を占めています。

全体

- 「会社員」が27.8%と最も多く、「無職」(20.5%)、「アルバイト・パートタイマー」(18.4%)、「家事専従」(15.3%)と続いています。
- 「無職」(20.5%)、「家事専従」(15.3%)の2項目に「学生」(2.6%)を合わせた“非就業者”は全体の38.4%を占めています。
- 一方、上記の“非就業者”(38.4%)と「回答なし」(2.0%)、「その他」(1.8%)を除いた残りの6割近くの市民が、「自営業」や「アルバイト・パートタイマー」などを含めた“就業者”となっています。
- “就業者”の中でも、「アルバイト・パートタイマー」が全体の18.4%を占めていますが、「会社員」と「公務員」、「団体職員」を足し合わせた、いわゆる“サラリーマン”は全体の33.1%を占め、「アルバイト・パートタイマー」の割合を上回っています。また、「農林業」と「自営業」については、合わせても全体の6.2%となっています。

図 1-3 職業



(4) 年収 (問 19 (4))

問 19 (4) あなたの家庭全体の年収 (年金を含む。) はどのくらいですか。【○は 1 つ】

要点

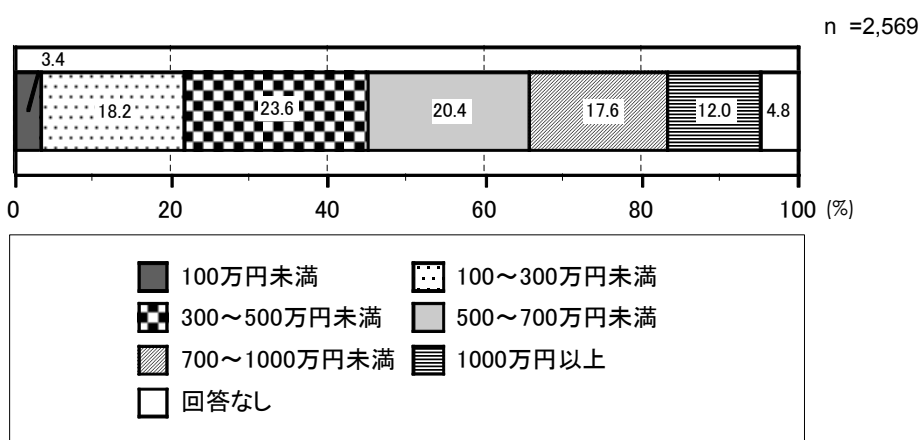
「300～500 万円未満」が 23.6%で最も多くなっていますが、年収 500 万円を境にそれ未満とそれ以上の年収の世帯は、ほぼ同じ割合になっています。

全体

○「300～500 万円未満」が 23.6%で最も多く、次いで「500～700 万円未満」が 20.4%となっており、500 万円を境にそれ未満とそれ以上の年収の世帯は、近い割合 (500 万円未満: 45.2%、500 万円以上: 50.0%) になっています。

○また、「1000 万円以上」という高額所得者が 1 割近くを占めています (図 1-4)。

図 1-4 年収



(5) 通勤先・通学先 (問 19 (5))

問 19 (5) あなたの通勤先・通学先は、次のうちどれですか。【○は1つ】

要点

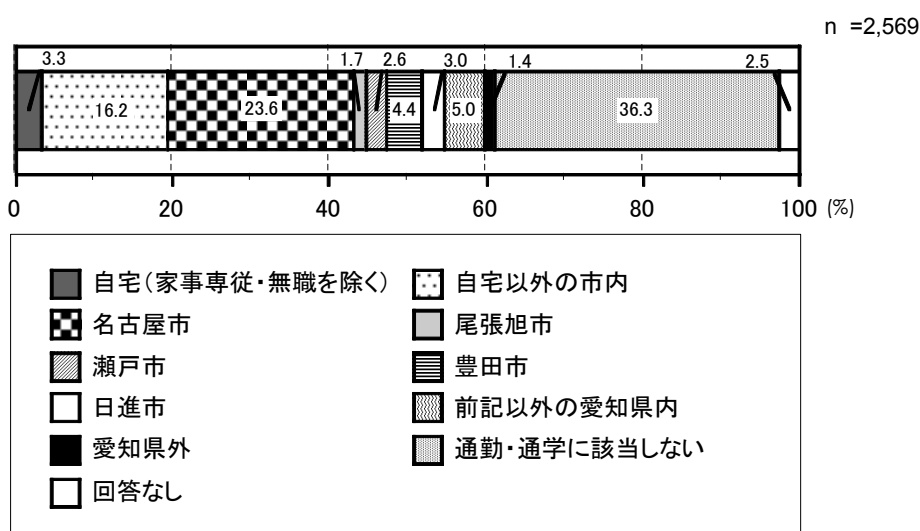
57.9%の市民は通勤・通学をしており、通勤先・通学先で最も多いのは、「名古屋市」で23.6%を占めています。「自宅」を含む市内に通勤・通学している市民は19.5%みられます。名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）に通勤・通学している市民については、合わせて11.7%にとどまっています。

全体

○「通勤・通学に該当しない」が36.3%を占め、これと「回答なし」(2.5%)、「自宅（家事専従・無職を除く）」(3.3%)を除いた残りの57.9%の市民は通勤・通学をしており、通勤先・通学先で最も多いのは、「名古屋市」で23.6%を占めています。

○次いで、「自宅以外の市内」が16.2%となっており、名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）に通勤・通学している市民については、合わせて11.7%にとどまっています（図1-5）。

図1-5 通勤先・通学先



(6) 住まい (問 19 (6))

問 19 (6) あなたの住まいは、次のうちどれですか。【○は1つ】

要点

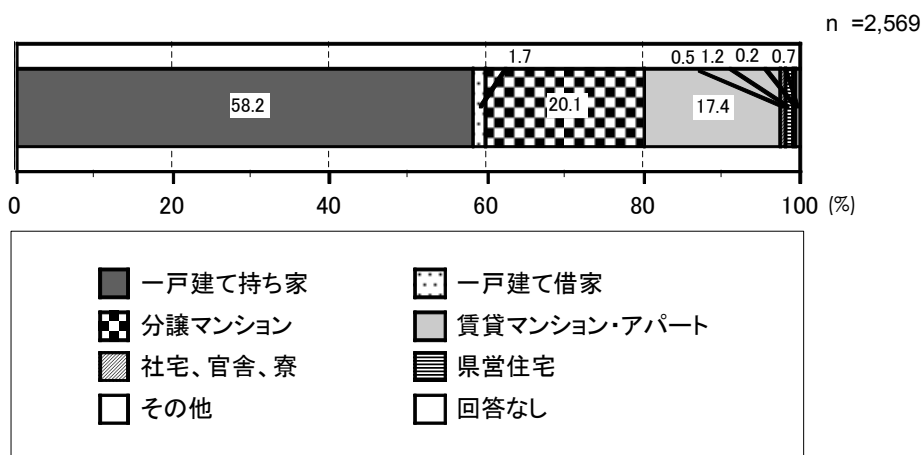
約8割の市民が持ち家（「一戸建て持ち家」(58.2%)や「分譲マンション」(20.1%)）に居住しています。

全体

○回答者の住まいは、「一戸建て持ち家」が58.2%、次いで「分譲マンション」が20.1%となっており、約8割の市民が持ち家に居住しています。

○借家の中では、「賃貸マンション・アパート」が17.4%となっています。

図 1-6 住まい



(7) 配偶者の有無 (問 19 (7))

問 19 (7) あなたには配偶者がいますか。【○は1つ】

要点

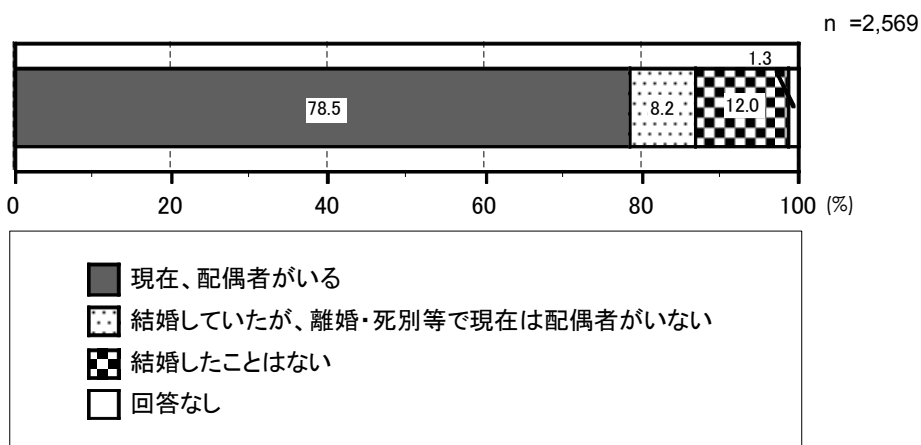
結婚経験のある市民は86.7%、結婚経験のない市民は12.0%になっています。

全体

○回答者の配偶者は、「現在、配偶者がいる」が78.5%となっており、「結婚していたが、離婚・死別等で現在は配偶者がいない」(8.2%)と合わせると、結婚経験のある市民は86.7%に達しています。

○一方、結婚経験のない市民は12.0%にとどまっています (図 1-7)。

図 1-7 配偶者



(8) 家族形態 (問 19 (8))

問 19 (8) あなたの家族の形態は、次のうちどれですか。【〇は1つ】

要点

「二世世代家族」が56.9%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が25.9%と続いています。

全体

○回答者の家族の形態は、「二世世代家族」が56.9%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が25.9%と続いています。

○「三世世代家族」(5.5%)と「単身世帯」(8.4%)は共に1割未満となっています(図1-8-1)。

○「夫婦だけ(=高齢夫婦+一般夫婦)」の世帯(24.6%)のうち半数以上が「高齢夫婦世帯」(13.7%)であり、また、「単身世帯(高齢単身世帯+一般単身世帯)」(8.1%)のうち3割以上が「高齢単身世帯」(2.8%)となっています(図1-8-2)。

図1-8-1 家族の形態

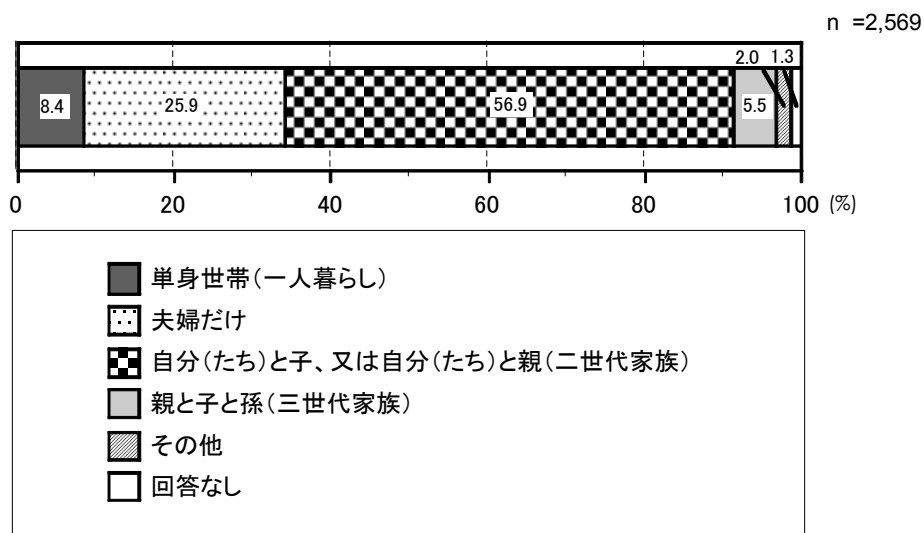
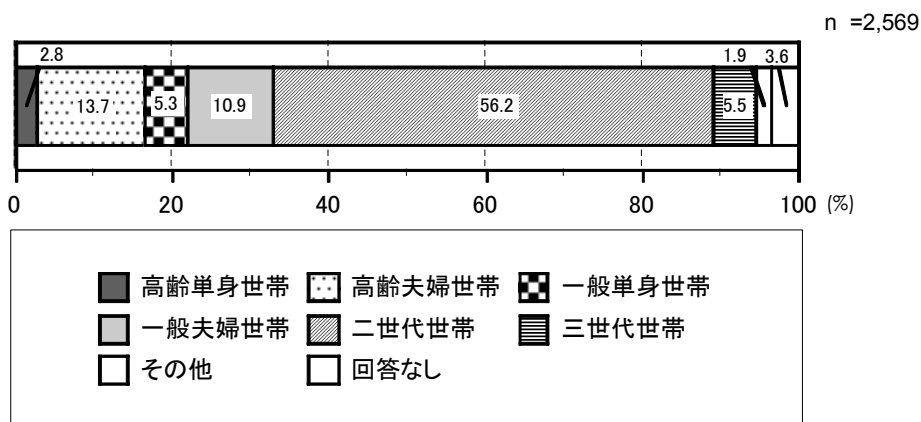


図1-8-2 家族の形態 (データ加工したもの)



(9) 同居の家族 (問 19 (9))

問 19 (9) あなたの同居のご家族には、次のいずれかにあてはまる方がいますか。あなたご自身を含めて、あてはまる人をすべて選んでください。

要点

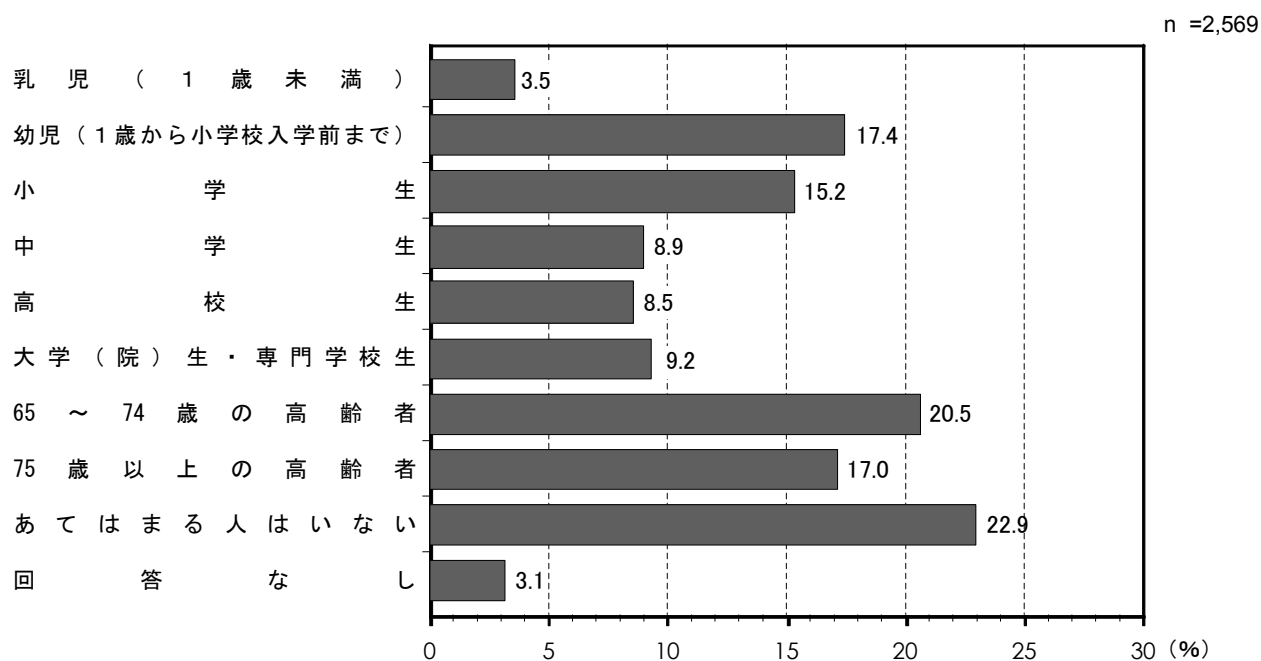
子どもや学生、65 歳以上の高齢者などの同居の家族がいる世帯が 74.0%となっており、そのうち、「65～74 歳の高齢者」(20.5%) がいる世帯や「幼児 (1 歳から小学校入学前まで)」(17.4%) がいる世帯、「75 歳以上の高齢者」(17.0%) がいる世帯が多くなっています。

全体

○「あてはまる人はいない」(22.9%) と「回答なし」(3.1%) を除く残りの 74.0%は、子どもや学生、65 歳以上の高齢者がいる世帯となっています。

○「65～74 歳の高齢者」(20.5%) がいる世帯が最も多く、次いで、「幼児」(17.4%)、「75 歳以上の高齢者」(17.0%)、小学生 (15.2%) と続いています (図 1-9)。

図 1-9 同居の家族



(10) 小学校区 (問 19 (10))

問 19 (10) あなたの小学校区はどこですか。【○は1つ】

要点

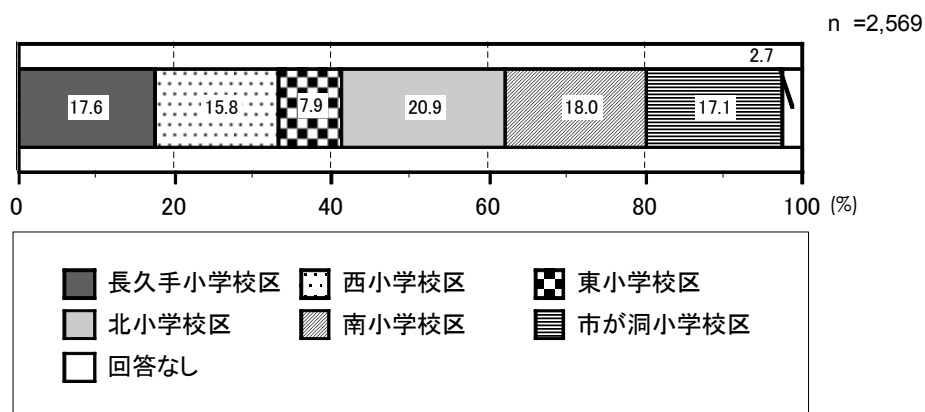
居住地区については、「北小学校区」が 20.9%と最も多く、次いで、「南小学校区」(18.0%)が多くなっています。実際の学校区別の人口の割合とは多少のずれがみられます。

全体

○居住地区については、「北小学校区」が 20.9%と最も多く、次いで、「南小学校区」(18.0%)、「長久手小学校区」(17.6%)、「市が洞小学校区」(17.1%)と続いています(図 1-10)。

○実際に人口が最も多い小学校区(平成 28 年 4 月時点)は、「北小学校区」で、次いで、「市が洞小学校区」、「南小学校区」、「長久手小学校区」、「西小学校区」、「東小学校区」と続いていることから、実際の学区別の世帯数の割合とは多少のずれがみられます。

図 1-10 小学校区



(11) 居住歴 (問 19 (11))

問 11 あなたは、長久手市に居住して何年になりますか。【○は1つ】

要点

居住年数「30 年以上」が 27.1%と最も多いものの、居住年数が5年以下の市民も 23.7%を占めており、人口増加が続いている本市の特徴を表わしています。

全体

○居住年数「30 年以上」が 27.1%と最も多く、次いで「10～19 年」が 20.4%と続いています。

○居住年数が20年以上の市民が全体の43.2%を占めているものの、居住年数が10年未満についても35.5%を占めています。また、居住年数が5年以下の市民も 23.7%を占めており、人口増加が続いている本市の特徴を表わしています (図 1-11)。

図 1-11 居住歴

